

特集

140 文字の天文コミュニケーション

廣瀬 匠（京都大学文学研究科/星のソムリエ京都）

2月よりパリ第7大学 SAW/ERC（古代世界の数理科学）プロジェクト所属

1. はじめに

数ある SNS の中でも天文普及における活用が特に目立つのが Twitter だ。私は4年間に渡り、海外ニュースの翻訳を中心に様々な天文情報をツイートしてきた。この「はじめに」も Twitter で一度に投稿できる文字数である140文字にまとめた。ここに計り知れない可能性が詰まっているのだ。

2. Twitter とその歴史

近畿支部会の参加者に Twitter を利用しているか尋ねてみたところ、おおむね3分の1の方は日常的に使っていて、3分の1は登録したばかりであったり使い方がよく分からない方で、3分の1は登録自体していなかった。本誌読者の皆さまはいかがだろうか。まだの方は、ぜひ本記事を読んで検討してみたい。

Twitter そのものについてはインターネット上に様々な情報があるので、たとえばツイナビ (<http://twinavi.jp/guide/>) などを参考にされれば理解が深まるだろう。簡単に言えば、Twitter とはパソコンや携帯端末などから「ツイート」あるいは「つぶやき」と呼ばれる140文字以内のメッセージを投稿するサービスだ。ツイートは即座に、原則として全世界に公開された状態となるが、他人のツイートをリアルタイムに閲覧するには相手を「フォロー」し、「タイムライン」と呼ばれるツイート一覧の中で表示させることになる。タイムラインで興味深いツイートを見つけたら、それに対して返信することもできるし、自身をフォローしているユーザーのタイムラ

インにもそのツイートを表示させる「リツイート」機能を使ってメッセージを拡散させることも可能だ。このように、Twitter は短い情報を瞬時に広めるメディアのような存在である一方、ユーザー同士が気軽に（「ゆるいつながらい」と称されることが多い）やりとりできるコミュニケーションツールとしての性格も帯びている。

さて、このサービスが米国で産声を上げたのは2006年7月と意外に早い。2007年前半には米国内で認知度が急上昇することになるのだが、この時点で1日に発進されるつぶやきの数は約5千に過ぎなかった。それが2008年になると1日30万ツイートを超えるようになり、米国の外にも広まり始め、日本語版のサイトも登場した。日本では2009年ごろまで極めてマイナーな存在だったのだが、著名人が一斉につぶやきはじめた2010年前後に急速に普及し、一時は世界中のツイートの2割近くが日本語という状況だった。この辺りの事情については後で触れたい。

3. NASA の先見性

数あるメディアの中でも、Twitter が一番天文の世界になじんでいると言っても過言ではないかもしれない。その理由としては Twitter そのものと天文の親和性が高いことがまず挙げられる。たとえば140文字のつぶやきには任意のウェブサイトへのリンクを含めることもできるので、世界中の天体写真家による作品や、ハッブル宇宙望遠鏡・すばる望遠鏡などがもたらす画像はあっという間に広まる（タイムラインに美しい天体写真が流

れてきたので、気がついたらリツイートボタンを押していたという方も多いただろう。文字通り秒速で拡散するのだ。

しかし何と言っても NASA の貢献に言及せずして天文における Twitter は語れない。まだ Twitter の黎明期同然だった 2007 年 12 月 20 日の時点で NASA は参入しており、現在に至るまで人気アカウントの 1 つであり続けている (2013 年 12 月 1 日の時点で 5,423,447 人がアカウント @NASA をフォローしている)。NASA は Twitter に限らず、新しいメディアが登場すると意欲的に取り込む傾向があるが、素晴らしい先見性と言えるのではなかろうか。ちなみに、学校教育・地球観測と言った特定分野に特化したアカウント、ジェット推進研究所など各施設のアカウント、あらゆる衛星や探査機のそれぞれにアカウントが用意されており、その数は合計で数百に上る。文字通り組織的な活用だ。そしておそらくこの流れがあったからこそ、世界中の宇宙関連機関や天文台にとって Twitter のアカウントを作ることは当たり前になっている。

2009 年 5 月 20 日には Mike Massimino 宇宙飛行士が世界 (いや、宇宙?) 初の「地球外からのツイート」を発信している。こうした話題性も Twitter における天文の存在感を高めるのに一役買っていると言えよう。



Mike Massimino
@Astro_Mike



From orbit: We see 16 sunrises and sunsets in 24 hrs, each one spectacular as the sun lights up the atmosphere in a spectrum of colors

翻訳を表示

返信 リツイート お気に入りに登録 その他

図 1 宇宙初 (?) の惑星外ツイート
(https://twitter.com/Astro_Mike/statuses/1852218149)

4. 日本の天文界における Twitter の普及

日本における Twitter は、最初のうちは人口も比較的少なく、主張がとびかう原論の場というよりは、「もう寝よう」「おやすみ～」、「流れ星だ!」「いいな～」などのような個人間のゆるいコミュニケーション文化が醸成されていた。何か天文現象があれば、空を見上げながら感想をつぶやき、同じ空を違う場所で見上げている仲間のつぶやきをタイムライン上で眺める。これが (少なくとも私にとっては) 当時の Twitter の一番の使い方だった。



図 2 2010 年 1 月の「すばる食」を楽しむ Twitter ユーザー達

<http://togetter.com/li/4032>

2009 年ごろから日本企業のつぶやきも目立ち始めるが、トップダウンで Twitter の導入を決めるというより、社員が自主的に始めたものが好評を博し、公式化したり、公式アカウントのような存在として認知された、というケースが多い。お堅いプレスリリースのような情報しか流さない企業はタイムライン

の中で埋もれやすく、「中の人」の存在感があり親近感をいだきやすい企業・団体のアカウントは（非公式のものも含め）大いに話題を集めた。どんな企業でも Twitter アカウントを持つのが当たり前になっている現在でも、その傾向は変わっていない。

ただし、即座に情報を広めるメディアとしての役割が軽視されているわけではない。それどころか、情報ツールとしての Twitter は欧米の諸言語よりも日本語との親和性が高いのだ。以下の例を比べてみていただきたい。

Topics on astronomy which contain terms like Supernova Remnants or Extrasolar Planets are much favorable to be tweeted in Japanese which is shorter in letters compared to English. (179 文字)

超新星残骸や系外惑星といった言葉が登場する天文学の話題は、英語に比べ文字数が少なく済む日本語でツイートするのが圧倒的に有利です。(65 文字)

さて、「個人先行→公式化」という流れは、日本の天文学関係の団体や企業にもいくつか例を見つけられるように思われる。たとえば(株)アストロアーツは、個人として Twitter を利用していた社員の提案で 2009 年末ごろから試験的に運用を始めた。それは「アストロアーツオンラインショップ店長&店員」というアカウントで、あらゆるツイートを天文グッズに絡めつつも、他のユーザーや店長と店員での掛け合いがつぶやきの多くを占めている。ユーザーにとっては気軽にフォローしやすい存在であり、また気軽に話しかけて商品のリクエストをするユーザーもいた。かくして導入は上々、その後 2010 年 4 月にアストロアーツの公式アカウントが発足するに至

った。これだけ詳細に説明しているのは、何を隠そう私が店員の「中の人」だったからだ

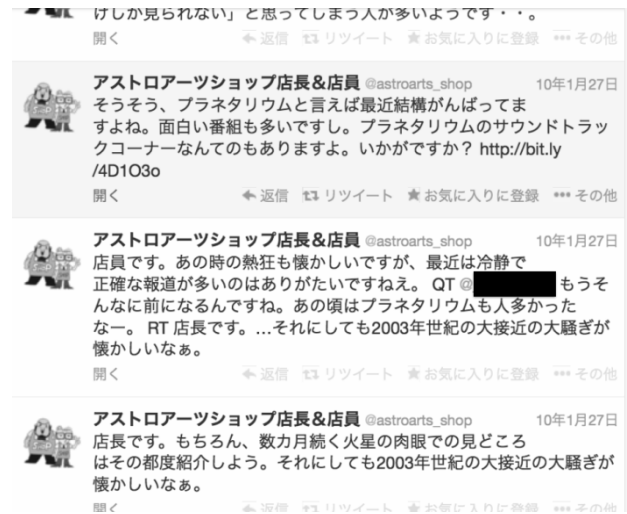


図 3 店長と店員の掛け合い

5. 私の使い方

2010 年度から大学院で天文学史を学ぶため、私はアストロアーツを退職した。それまでは仕事の一つとして海外の天文ニュースの翻訳を行っていたが、これを完全にやめてしまっは情報収集力が落ちてしまうと思ったので、NASA のプレスリリース等を中心に自分で英語のニュースを集め、日本語で要約してつぶやくようにしている。特に使命感はなくゆるゆると続けていたのだが、気がつけばありがたいことに多くの方にフォローしていただけっていた。

ちなみに一番多く翻訳しているのが NASA のサーバーで運用されている APOD (Astronomy Picture Of the Day, 天文学の今日の一枚) という天文画像+解説記事を毎日更新しているサイトだ。天文関係のつぶやきは文字だけだと反応は薄く、目を引く画像があると拡散しやすい傾向にある。ちなみに過去で最も反響が大きかったツイートは 2013 年 3 月 27 日の APOD を要約したもので、【先週パリで見られた、超低空の虹。虹は

必ず太陽の正反対方向を中心に、42度の所にリング状に現れる。なので、太陽が高いときに上手く雨粒が光を曲げれば、こんな光景が見られる。】というものだ（リツイート 1527回、お気に入り登録 900件）。厳密には天文と関係がないのが残念…。



図4 APOD (<http://apod.nasa.gov/apod/>)

文字だけのツイートでも、マスメディアで取り上げられるほど話題になっていたり、一般の方から見て意外性のあるツイートだと広まりやすい。2012年5月5日につぶやいた【「スーパームーン」を紹介する記事の大半が「2012年の他の満月より14%大きくて30%明るい」としているけど、それは間違い。例えば先月の満月と比べると直径は1%大きいにすぎない。何と比べてるかっていうと、月が一番地球から遠い地点で満月が起きた場合だ。】というつぶやきが良い例だ。もちろん、いたずらに注目を集めるのを目当てにしてネタを考えるのはあまりおすすめできない。私が意識しているのは、硬い表現や専門用語を避けること。先程の例で言えば「遠地点」を避けているのがこれに当たる。

他にも、私が主催または参加する天文イベントの告知をつぶやいたり、天文と全く関係ない日記的なつぶやきや失敗談、笑い話をツイートしたりすることも多い。【豚汁を関西では「ぶたじる」と読むのが納得いかない】云々というツイートが100回以上リツイートされたこともあった。単なる天文メディアとして

認知されてしまっただけでは業務的になってしまうので、こうしたつぶやきも私にとっては必要なのだ。なお、何かにももの申すようなツイートは影響が怖いので決してしないようにしている。もちろん自分の意見を率直に表明することはTwitterでは大いに尊重されることなのだが、この辺りのスタンスは人それぞれであらう。



廣瀬匠 (Sho Hirose)

@kippis_sg

豚汁を関西では「ぶたじる」と読むのが納得いかない、関東式の「とんじる」の方が自然だろ、と人に説いていて、例として「牛丼を『うしどん』とは読まないでしょ」と言った次の瞬間、自分で気づいてしまった。豚丼の存在に。……何で関東では「とんじる」という不自然な読み方をしているの？

返信 削除 お気に入りに登録 その他

117
件のリツイート

33
件のお気に入り



2013年11月5日 - 13:35

図5 こんなゆるいツイートでもよいのだ

なお、単一のツイートとしては拡散しなくても、一連のツイートや他人とのやり取りが注目されることがある。特に日本ではtogetterという複数のツイートをまとめて一つの記事にできるサイトがあり、利用者が多い。Twitter社がこれとよく似た機能を公式に実装する動きもあるので、今後は情報発信の形態として重要になるかもしれない。

6. これからのTwitter

Twitter社が2013年11月に上場したことは記憶に新しい。アクティブユーザー数は2011年9月に1億人、2013年3月に2億人を突破し順調に伸び続けている。悲観的な見方をする専門家も多いが、途上国を中心にまだまだ伸びしろがあるのは間違いない。

一方日本はといえば、確実な統計はないも

の2010年に一気に2000万ユーザーまで達してからは横ばいが続いている。微減傾向だという説もある。2012年にはFacebookに追い抜かれており、最近ではLINEがさらにその上を行くためSNSとしては3番手に甘んじている。ただし2011年3月11日の東日本大震災などの経験から、ただの情報ツールではなくライフラインとしてもその意義は広く認識されていて、一気に衰退に向かうとは考えにくい。

ユーザー同士の関係性に注目すると、それまでは「ゆるいつながり」で誰もがつながっていた世界から、現実世界の知人を中心とした「仲間」とちょっと遠い存在の「権威ある情報源」とに二極化しているように思われる。前者はフォローし合っているけど、後者は一方的にフォローしているだけということが多だろう。そんな「情報源」はさらに2種類に分けることができる。1つは「ニュース型」で、企業・団体の公式アカウントに多く、一方的に情報発信を続けるマスメディア的な存在だ。もう1つの「キュレーター型」は自身も情報受信者で、情報を選別して共有・拡散するユーザーである。情報発信ツールとしてTwitterを活用するのであれば、是非このキュレーターの存在に注目していただきたい。キュレーターは各々の得意分野を持っており、それに関心を持つた多くのユーザーにフォローされているのだが、固定化されたメディアと違って情報ジャンルが厳密に決まっているわけではない。何かの拍子でフォロワーの多いキュレーターが天文に関する話題をつぶやいたりリツイートしたりすれば、それが爆

発的に広がるのだ。天文や宇宙開発に関する話題を好むTwitterユーザーは「天文クラスタ」とも呼ばれるやや閉鎖的な集団を構成する傾向があったが、リツイート・システムとキュレーターのおかげでそれまでクラスタ内で消費されるだけだった話題が非天文ファンにまで飛び火するようになってきている。もちろんそこから新たに天文ファンが誕生する可能性も大いにある。

ところで、天文普及のためにツイートするのであれば、ウェブ上で綺麗な天体写真を見たり面白い情報を聞いたりするだけでフォロワーを満足させてしまってよいのだろうか。一時このように考えたことがあったが、あまり考えすぎなくてもよいだろう、というのが私の結論だ。どんなに狙っても話を聴いてもらえないときはもらえないし、思いも寄らないネタが他人の興味を惹くことだってある。そこで、まだつぶやいてない方々には是非とも難しく考えずに一步を踏み出してみたい。その140文字はあなたを変えるかも知れないし、間違いなく天文の世界をさらににぎやかにさせるはずだ。



廣瀬 匠

* * * * *